

第54回戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典 (8.14式典)

戦没者慰霊と共に世界恒久の平和を祈願



各教団青年女子による平和の祈りを込めた献灯



千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて真心からの天茶供養



冷たい天茶を参列者へ配る東京ブロックの青年たち

終戦記念日前日の8月14日、本会が加盟する新日本宗教青年会連盟主催の第54回戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典(通称・8.14式典)が東京・国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて開催され、約1800名が参加した。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑は、先の大戦において海外で亡くなられた方々のご遺骨のうち、ご遺族にお渡しすることのできなかったご遺骨が納められており、昭和34年に国により建設され、今年で60年の節目を迎えた。今年も、旧ソ連、ミャンマーなどから925体のご遺骨が新たに納められ、これまでに納骨されたご遺骨の総数は、約37万體となっている。

当日は、本会から岡野英夫理事長、渡辺孝彦顧問、本部役員、首都圏各支部の会員が多数参列した。

式典に先立ち、靖國神社参拝が本会東京地区協議会主催のもと午後4時に執り行われ、拝礼行事、玉串奉奠を行った。村田信昌権宮司より「戦争終結から74年という歳月の中で、遺族の高齢化が進んでいます。この国や地域を守るために力を尽くされた英霊のご遺徳を次の世代に正しく語り継ぐことこそが重要」との



祈りが込められた折鶴奉納



岡野青年本部長が代表して黙行



左から井上・増永・大畑の3名の青年副本部長

挨拶があった。その後、一同は千鳥ヶ淵戦没者墓苑に移動し、午後4時45分より戦没者の英霊に対し、般若心経三巻の真心からの天茶供養を行った。

式典は午後6時に開式。本会より奉納された多数の折鶴が会場を彩る中、主催者を代表して宮口弘道新宗教青年会連盟委員長が挨拶を述べた後、岡田光央新日本宗教団体連合会理事長は「世界恒久平和を目指し、絶対非戦を掲げて活動を続けて参りました。争いのない平和な世の中を築き上げるためには、宗門宗派を超えた宗教協力が必要」と呼びかけ、さらに「宗教心を土台とした『赦す心』を喚起して現実に実践することが慰霊供養となる」との挨拶を行った。

その後、加盟教団の青年女子による献

灯、教団の代表者(本会からは石川幹東京第7教区副部長=写真左)による折鶴の奉納と続いた。

教団別礼拝では、8教団の青年代表者が六角堂内で祈りを捧げる中、各教団の代表者が祭壇にて、それぞれの形式で礼拝を行った。本会からは、岡野孝行青年本部長を先達に3名の青年副本部長が代表して六角堂に進み、祈願文、三綱五常報恩、宝号を会員と共に念唱した。

続いて、生きて帰ることができなかった靈魂に向けて、「ふるさと」の歌を参列者一同で贈り、加盟教団を代表して妙智會教団の白井久美子さんが平和のメッセージを発表。平和を祈願して参加者全員で1分間の黙祷を捧げ、来賓献花をもって、午後7時30分閉式となった。

解脱金剛尊者盂蘭盆法要

御寺にて御法要を賜る有り難さを実感

毎年、盆の入りに御寺泉涌寺にて執行されている解脱金剛尊者の盂蘭盆法要は、金剛さまご遷化後まもなくして御寺泉涌寺よりの格別のご厚情を賜わる中、行なわれ続けられてきたもの。本年も8月13日に御寺泉涌寺にて、金剛さまの盂蘭盆法要が行われ、岡野英夫理事長をはじめ本部役員と、関西、中部、四国地区の会員、約200名が参列した。

午前11時、霊明殿にて一同は皇祖宗宗に対し額ずき、般若心経を念唱。その後、妙応殿にて上村貞郎長老猊下を導師とし、職衆各位による御法要が厳かに営ま

れる中、焼香を行い、続いて田中英次京都教区長の先達にて勤行が執り行われた。

挨拶の中で、新盆を迎えられた長老さまとの思い出を語られた上村長老猊下より、「解脱会の発展を願い微力ながらお力添えさせていただきますので、肩を落とさずに頑張ってください」と温かな励ましのお言葉を頂戴した。

最後に、岡野理事長より「毎月4日の御法要に加え、本日も金剛さまをはじめ長老さま、会員各家御先祖に対する御法要を賜りました。先祖の喜びはいかばか



りか。この荣誉に預かれるのは法縁に浴したればこそ」と挨拶があり、一同、改めて法縁に感謝し、より一層精進することを誓った。終了後、関西道場では京都・大阪教区の有志の方々が接待の奉仕を務め、奉納されたそうめん（神戸五十波支部）とトウモロコシ（黒姫出張所）が参加者に振る舞われ、大変喜ばれた。



道場盂蘭盆法要

先人、先覚者へ感謝の祈りを捧げる

本部道場の盂蘭盆法要が7月15日、御霊地と各直轄道場では8月15日、感謝日行事に先立って執り行われた。

本部道場では午後1時より、藤原博内務局長が導師となり、御神前右側に設け

られた祭壇に向かい、開教以来先亡者精霊、会員各家先祖代々之精霊、各種戦役戦没者精霊、法界無縁萬霊、支部長以上の今年度新盆特別法要精霊＝下記参照＝に対し、懺悔文、般若心経を会場一体と



なり唱え、真心の供養を厳修し、先人、先覚者へ感謝の祈りが捧げられた。

令和元年 新盆特別法要精霊 (敬称略)

岡野 聖法	埼玉北本宿	長老
小林 俊弘	下 馬	元相談役
小林 正二	牛 込	常任理事
古姓 敏夫	川越初雁	参 与
沖津 善子	あきる野	参 与・名誉支部長
田島三秩子	目黒三谷	参 与
増田 幸造	浅 草	参 与
内藤 裕	静岡袋井	参 与
阿曾沼孝允	八王子	理事参与・支部長
寺嶋 豊	中 野	教区長
相馬 光男	弘前南	名誉支部長
山崎多利恵	岩手大槌	名誉支部長
堀内ミヨシ	新潟葛塚	名誉支部長
山中 昇	川越初雁	名誉支部長

関谷 晴一	埼玉入間	名誉支部長
政年貴美子	刈谷新富	名誉支部長
横山 清野	福井加茂河原	名誉支部長
太田 朗	滋賀大津	名誉支部長
福田 一雄	鹿児島宇宿	名誉支部長
坂入 和吉	茨城真壁	支部長
草場 一雄	目黒三谷	支部長
松谷 俊夫	小石川	支部長
阿野 茂樹	滋賀蛭谷	支部長
西田 耕造	熊本田迎津	支部長
戸川久美子	福 江	元名誉支部長
大澤 弥生	愛媛大西	元支部長
太田 八造	堺浜寺	元支部長
日野 達夫	岡山久世	元支部長
村上 周利	今治常盤	元支部長
牛川 清志	宇和島吉田	元支部長

仲介者養成コース

信頼される仲介者に

7月27日、今年2回目の仲介者養成コースが御霊地・解脱研修センターにて開催され、44名が参加した。

午前10時、宮坂保徳教務局長の開講挨拶に始まり、まずは岡野英夫理事長が「御五法修業について」と題して講話に立った。ホワイトボードを用いて見えない世界との関係や秘義三法の重要性を分

かりやすく説き、さらに「仲介者は霊と修業者の間を取り持つ役割。双方からの信頼を受けられることが大切」と、驕らず誠の心でお使いいただく仲介者の在り方を伝えた。続いて大賀光夫修法部長と岩田始修法部次長より「御五法修業の目的と心得」「事前・事後の在り方」「霊動と靈魂の基本編」「霊動編」について、修法シートに基づいて詳しく学んだ後、9班に分かれての実修が終日行われた。

翌28日、午前中は引き続き班別実修が行われ、午後からは「教区・支部での



現状」をテーマに東京第3教区の石井好正修法担当員と滋賀教区の今庄和子修法担当員が発表。最後に倉田正治常任理事の講話があり、各自の更なる向上と教区や支部での実践を誓い、午後3時、散会した。

埼玉教区・教区大会

金剛さまが遺されたみ教えを家庭・社会で活かす



埼玉教区では7月13日、御霊地・研修センターにて教区大会を開催し、総勢130名が参加した。

午前10時より開会。拝礼行事の後、山本和雄教区長は教区大会の御礼を述べ「金剛さまが遺された教えを家庭、社会で活かし、世のため人のために使っていただけのお互いさまに学んでいこう」と挨拶した。続いて、武蔵丸や武双山と



同時代に剣武の四股名で大相撲幕内力士として活躍された宮本一輝氏(有)ミヤモト、(株)秩父ふるさと村代表取締役社長より「相撲と我が人生」をテーマに相撲をはじめたきっかけや恩師から受けた心ある言葉やさまざまな体験について講話があった。

昼食後、30分にわたり野口聡士さん(埼玉北本宿支部青年部班長)より、3月に



参加したミャンマー・スタディツアーの報告があった。その後、教区健康指導の時間となり、各班に分かれて足もみ、解脱3分間体操の説明と実習が行われ、さらに地元で足もみ活動で活躍している、秩父中央支部・富田利夫さんと秩父中村支部・落合京子さんからそれぞれ体験発表があった。山崎正道担任部長の閉会挨拶、終礼行事と続き、午後3時30分に閉会した。普段聞くことのできない元幕内力士の講演や2時間にわたる足もみの実修など工夫されたプログラムに参加者一同、充実したひと時を過ごした。

四国東教区・教区大会

四国八十八カ所徒歩巡拝錬成を開催



清瀧寺を背にし、出発時に撮った集合写真

四国東教区では教区大会として、7月27日～28日に四国八十八カ所徒歩巡拝錬成を開催。本部出講の宮原秀治指導員を迎え、総勢70名で行われた。

弘法大師ゆかりの四国八十八カ所霊場を巡る本行事は、会員以外の参加者をお誘いし、お導きの場とすると共に、参加者同士の交流を深め「思いやり」の心の育成と、徒歩巡拝を通して万物への感謝の心を育成することを目的として平成15年から毎年行われ、今回で第16回目を迎えた。

巡拝錬成前日の26日午後7時より、教区会員が徳島大和支部に集合し、巡拝に先立って「千巻供養並びに百味の供養」が行われた。御神前の前に組まれた祭壇には、「各家先祖代々之霊」と「各家流産

無縁之霊」の位牌と共に、各自申し込んだ霊魂の霊名が綴られた用紙が置かれ、祭壇の前に山盛りのお給仕が捧げられた。中川朋昌教区長の先達によって、霊魂の安霊を願い八角供養塔にて天茶供養が懇ろに行われた。最後に中川教区長は「暑いお蔭で作物が稔る。暑さに感謝をして、ご先祖さまの安霊を願いながら歩かせていただきます」と、明日からの巡拝錬成の心構えを示し、午後9時に供養会が終了した。

巡拝錬成1日目の27日午前9時半、一同は昨年の終了地点である高知の35番札所清瀧寺手前に集合。朝礼後の午前10時、心配された台風の影響もなく、照り付ける太陽のもと、まず15Km先の36番札所青龍寺を目指し、各々のペース



青龍寺にて、霊名を読み上げる先達の細川氏と補佐を務める宮原指導員

青龍寺を後に、残り5km先を目指し、歩を進める巡拝者

で徒歩巡礼のスタートを切った。青龍寺では、先に到着した先達を務める徳島大和支部・細川潤一氏と宮原指導員が、社殿前にて参加者の先祖並びに申し込まれた霊魂の霊名を読み上げ、供養を行った。先達はその場で待機し、次々に到着する巡拝者と共に勤行を行い、青龍寺を後にした巡拝者は、5Km先の地点まで歩き、1日目の行程は終了。バスと車でホテルに移動し、お風呂で汗を流した後に直会となった。宮原指導員より労いの言葉を頂戴し、お互いの身体を労わりあいつつ和やかな時間を過ごした。

翌28日、午前8時半に1日目の終了地点から10Km先の地点を目指して一行は再び歩き出し、午前11時に巡拝錬成が終了。ホテルに戻ってシャワーを浴び、昼食を取り、午後2時、帰路に就いた。

両日、気温32度を超える猛暑だったが、一人の脱落者もけが人もなく全員が完遂することができた。「また来年も参加します」と帰る参加者の顔には、清々しい笑顔が輝いていた。

解脱錬心館・第46回外国人剣道指導者夏季講習会

真髓を学び素晴らしい剣士になる



は、岡野英夫理事長より「指導者を目指すということは、それぞれの国における剣道の将来を担う大変重要な役目。本講習会で日本を代表する素晴らしい先生方から真髓を学び、指導者としての素養を培い素晴らしい剣士を目指して

7月19日から26日にかけて、第46回外国人剣道指導者夏季講習会が解脱錬心館で開催された。これは全日本剣道連盟が主催し、世界各国の剣道の普及と指導者としての技能を高めることを目的に実施され、今回は45カ国から61名の外国人剣士が集結した。

初日の本会主催の歓迎パーティーで

ください」との激励の言葉が贈られた。来賓には三宮幸雄北本市長をはじめ剣道関係者、錬心館後援会役員も参加し、受講者は共に学ぶ仲間と親睦を深めていた。中でもニュージーランドから参加した、ドーラン・カクさん(写真右上)は、剣道歴35年の59歳。「相手に礼節を尽くすところに惚れて始めた。色々な先生

から技術を吸収し、母国の子供達に伝えていきたい」と語った。

オランダから参加した、タージ・サッセレンチさん(写真右下)は剣道を始めて9年になる39歳。仕事は、舞台装置や舞台のセッティングをするデザイナーで、「8段を目指して日々精進していきたい」と今後の目標を語ってくれた。



講習会は、田中宏明館長(御霊地局長)を含む全剣連の先生が指導のもと、日本剣道形、指導法と実技、そして審査法を基本に、早朝、午前、午後の厳しい稽古と指導法を学んだ。この研修は26日に行われる段審査をもって解散となり、参加者は厳しい稽古で学んだ精神と技術を自国で活かすべく帰国の途についた。

御霊地勤労奉仕

心の故郷に心身共に浸る3日間

7月5日～7日、6回目となる御霊地勤労奉仕が開催され、初日に三浦純教育部長が述べた「にっこりと笑顔で楽しく奉仕させていただきます」との言葉通り、参加した総勢11名は、3日間にわたり笑顔で心地よい汗を流した。

参加者は研修中、毎朝9時に職員と共に道場御神前で挨拶の後、作業内容の確認と身体のケアを行い、10時より奉仕開始。昼食をはさみ、午後3時頃まで奉仕活動の後、ペアワークなど1日の疲れをとる身体のケアを行った。

今回の奉仕内容は、宝物館隣にある第1駐車場出入口の3カ所の門のペンキ塗りをメインに行った。表面の汚れをこすり落として錆をはがし、水拭き後にペンキを塗るという行程に、始めは時間がかかったものの、慣れるに従い作業も早まり、きれいな仕上がりに喜びを分かち合った。その他、第2駐車場のトイレ内の壁のペンキ塗り、草取り、剪定後の枝木を束ねる作業などを行った。当初、天気予報では3日間とも雨の予報だったが、小雨が降ったものの作業には影響なく、



むしろ涼しく心地よい中での奉仕となり、清々しい喜びの中で予定以上の作業を行うことができた。

終了後、参加者より「御霊地の神聖な空気に包まれ奉仕する時間がとても有り難かった」「この感動をより多くの方と分かち合いたい」などの感想が聞かれた。

次回は、本年11月に開催の予定。

首都圏合唱団

初の合同コンサート開催

7月20日、「首都圏混声合唱団 & コーロ・レジェーロ ジョイントコンサート」が本部道場地下ホールにて開催された。

コーロ・レジェーロはアマチュア合唱団であり、同じく杉本龍之氏(千葉木更津支部長)に師事する縁から首都圏混声合唱団との合同開催が叶った。

また今回から津之守弁財天崇敬会の協賛を受け、当日は解脱会本部の地元荒木町会の方々も訪れ、会場は和やかな賑わいを見せた。

「われは海の子」など馴染みの唱歌の他、米国解脱教会会員の作詞と杉本氏の作曲



により完成した「My Gedatsu Life」を初披露。団員たちが客席を囲み、観客と共に歌いあげた。さらにソプラノ独唱やピアノ連弾など多彩なプログラムに観客は時間を忘れて音楽に親しんだ。

最後に福岡県宗像大社の依頼で杉本氏が手掛けた混声合唱組曲「木漏れ日は」より3曲を披露、会場から盛大な拍手が贈られた。

CD「寶」残部僅少につき

お早めにお申し込み下さい。

立教90年を記念して製作されたCD「寶」が在庫僅少となりました。



頌徳碑除幕式典での金剛さまの肉声が収録された大変貴重なもので、今後、販売する予定は一切ありません。ご希望の方は支部を通じてお申し込みください。

価格 10,000円(税込)

内容/御講演CD、資料集、桐箱

新潟教区・教区大会

被災地・福島の海岸で供養祭

新潟教区では6月30日、福島県新舞子浜海岸にて東日本大震災の犠牲者へ天茶供養を捧げた。この行事に先立ち、清水隆善教区長と女性部役員は現地へ赴き、地元教区役員と打ち合わせを行い綿密な計画を立てた。

当行事には本部より倉田正治指導員が出講、新潟教区より66名、地元東北第2教区より30名、合計98名が参加した。

当日は、長岡市内と新潟市内の2ヵ所からバスが一台ずつ出発し、途中で合流。新潟県内では雨が強く降り続き、現地の

状況を心配しながらのスタートとなった。行ききの車内では、震災当時の状況を改めて思い起こし犠牲者へ心を寄せるため、海上保安庁のDVDによる学習や、東北第2教区長夫人の合澤洋子さんの体験談の朗読が行われた。

新舞子浜海岸では、地元会員が大雨の中でテントを用意するなど準備が整えられていた。大供養が始まると、新潟・東北第2の両教区会員による読経は雨音をしのぎ、持ち寄った天茶による真心からの撒き供養と供養塔への供養が続けられ



た。そのうち荒れていた波も次第に穏やかになった姿に、靈魂の喜びを感じつつ大供養を終えることができた。

新潟教区の役員からは「今回の御供養は東北第2教区のご協力により実現したものです。これからも靈魂の安霊と被災された方のご苦勞を忘れずに、いつまでも心を寄せていきたい」との言葉が聞かれた。

神奈川教区・第5回家族スクール

雨の中で過去最高の結果に

神奈川教区では6月23日、小田原市いこいの森にて教区こども会主催による第5回家族スクール・バーベキュー大会を開催し、110名が参加した。当大会は、世代間の交流を図ることを目的とし、また新しい人のお誘いとお導きのための行事となっている。今回は初参加者が20人とこれまでにない大会となった。

雨模様の中で始まった大会は、当初、予定していたプログラムを一部変更。例年ではバーベキューの後に行っていたウォークラリーを11時の開会式・チーム分けの直後に行った。この判断は結論からすると功を奏し、ウォークラリー中に雨が降られたものの、森の木が屋根と

なりほとんど濡れずに済んだ。しかも、ウォークラリーで体を動かした後ということもあって、子供たちが見事な食欲を見せ、食材を残すことなく完食した。特に雨が降っても森の木のお蔭で濡れずに済んだという経験は、子供たちには大自然の恵みと森の優しさに触れる良い経験



になったように見受けられた。

午後からはパン食い競走とウォークラリーの結果発表、そして閉会式となった。

今回は雨のために土壇場でプログラムの変更となり役員一同ハラハラ、ドキドキだったが、イベント内容がバーベキューということもあり多くの人をお誘いすることができ、特に若いお父さんが家族で参加するなど、終わってみると今までの中で一番盛り上がった家族スクールとなったようだ。（内田真知子・記）

中国第2教区・第2回ファミリーフェスティバル

流しそうめんで盛り上がり



中国第2教区では6月30日、「家族学びにつながるきっかけづくり。教区と支部の活性化と人材育成」を目的に、世羅ふじ園にて「第2回ファミリーフェスティバル」を開催、総勢72名が参加した。

当日の朝は大雨となり心配されたが、

開会時刻が迫る頃には雨も上がり、午前10時半に開会。地元会員が用意した竹を割り、会場の勾配を利用して20メートルに渡るそうめん流しを製作。背の低い子供には踏み台を用意。油断していると流れ過ぎてしまうので、子供たちは必死になって次々と流れてくるそうめんやうずらの卵、プチトマトをほおぼっていた。

最後は、来秋開催予定の三聖地巡拝練成などの行事参加の呼びかけ等を行い、午後2時に終了した。（沖本義治・記）

中国第2教区・健康指導研修

自他の健康のために



中国第2教区では7月7日、広島県せら香遊ランドにて「健康指導研修」を開催し、本部より津村和範指導員が出講、28名が参加した。

研修では「認知症対策と有食法」の講義を受け、参加者たちは足心道と体操法の実習を中心に自他の体力増進と健康維持に生かそうと熱心に学んでいた。

中野十七夜講社富士参拝登山

令和初の登拝行を意気揚々と

7月21日～22日、中野十七夜講社（講元・稲子知義中野支部長）主催、中野支部協賛による恒例の富士参拝登山が行われ、37名が参加した。

1日目、中野支部発と御霊地発秩父中村支部経由のバスに分乗し、一行は北口本宮富士浅間神社で合流。その後、同神社と同神社境内に鎮座する神変大菩薩碑を参拝した。続いて、船津胎内神社を訪れ、

富士スバルラインを通過して5合目に到着、小御嶽神社を参拝後、いよいよ登山開始となった。

頂上組20名は砂と岩ばかりの登山道を進み、8合目「蓬莱館」で仮眠後、2日目未明に同山小屋を出発、闇の中をさらに進み、夜明けと前後して登頂を果たして、御来光を拝んだ。一方、残りの5合目組17名は「佐藤小屋」に宿



泊し、翌朝、日蓮上人修行の地、経ヶ岳で御来光を迎え、遭難者慰霊供養を厳修した。昼には頂上組と合流して下山し、

再び北口本宮富士浅間神社で登山の無事成満御礼の御奉告を行い、令和のはじまりを飾る参拝登山は終了となった。

中部圏域

七夕と流しそうめんを楽しむ



中部圏域は7月7日、「すくすく広場」と銘打ち、中部道場において子供向け行事を開催し、100名（内41名が子供）が参加した。

午前はこども会講座で、七夕の笹飾りを作った後、昼食では皆でわいわいと楽しく流しそうめんを堪能した。

午後からは笹の飾り付けとゲームを行った。子供たちが五色の短冊や笹飾りの意味を学びながら、将来の夢や身近な人たちの幸せを願う姿に、大人たちは大きな感銘を受けていた。

中部圏域では教区の枠を超え、「育成」をテーマとして対象者毎に行事を開催している。今後は、女子青年や若いお母さん向けの行事が予定されている。

神戸教区・第16回親学セミナー

子供を育てる食育セミナーを開催

神戸教区は6月30日、本部より津村和範指導員を迎え、第16回親学セミナーを神戸市ピフレホールにて開催し、50名が集った。



今回のテーマを「食育～愛情おかずで未来のこどもを育てる～」に、健康指導とのコラボ行事として開催。アイスブレイキングから始まる和やかな雰囲気の中、津村指導員より「食育について」と題する講話があった。午後からは、大人はグループ毎に分かれて、講話を受けてのディスカッションと発表、子供たちは、別室で作った作品を披露した後、最後に参加者全員で津村指導員と勝ち抜きじゃんけんゲーム、「幸せなら手をたたこう」の合唱をして楽しく過ごした。

北海道々東教区・教区大会

一人ひとりの教えに対する意識を高めていく



北海道々東教区は7月7日、帯広支部において教区大会を開催。合計40名が集った。

本行事は、新時代を迎えて、教区会員が新たな気持ちで学びを深め、会員同士の交流を図り、さらには立教100年に向けて会員一人ひとりの教えに対する意識を高めていくことを目的として行った。

午後1時より開会、道林孝吉教区長、桑原康彰理事参与の挨拶に続いて、井上公郎指導員は新時代に向けての心構えと共に、五法則について初心者にも分かりやすく講話した。

その後、佐々木秀夫担任部長の閉会挨拶、終礼行事、会員各家の先祖供養を捧げ、午後3時終了となった。

東北第1教区・北区会員大会

思いやりに生きる心を育む

6月23日、東北第1教区北区では青森はまなす会館において、「思いやりに生きるための心を育む」をテーマに会員大会が開催され、32名が集った。午前10時30分開式。拝礼行事の後、菅原弘樹教区長より挨拶があり、教区役員・新支部長紹介と続いた。



立教100年に向けて自分や相手の長所を見つけ一人ひとりがお導きできるようにとの願いからの試みとして「自分を知るため」の時間が設けられた。その後、本部より出講の滝沢寧指導員からの自身の体験を交えた分かりやすい講話と掌心法の実技指導の後、流産・幼児有縁無縁、会員各家の先祖供養、東日本大震災特別供養を厳修し、終了となった。

京都教区・女性大会

感謝の生活が幸せへと繋がる



京都教区女性大会が6月30日、関西道場にて開催され、77名が集った。午前10時開会、拝礼行事、田中英次教区長挨拶に続いて、京都洛央支部・中川公子さんから入会のきっかけや支部での学びの大切さなどの体験発表があった。

本部より出講の瀧久和指導員からは、2回に分けての講話があった。最初の講話では米国解脱教会の状況や自身が体験した内容を中心に行い、昼食後の講話では「いい人生を生きるために解脱の学びがあり、自分の気付きによって、喜び、感謝の生活に変えていくことが幸せへと繋がる、すべて自分の心次第である」と述べた。講師の言葉に参加者一同は大きく頷きあい、感謝の日々を誓いあって、充実した一日を締めくくった。

東京第7教区・ファミリースクール

「全ては御霊地から」を合言葉に



東京第7教区は6月29日～30日、御霊地において初めてのファミリースクールを行い約60名が参加した。

運営には教区の青年、女性、子ども、修法、健康指導の5担当が携わり、「全ては御霊地からはじまる」をテーマに6回の打ち合わせを重ねて、当日に臨んだ。

当行事は、健康指導、鼓笛交流会、花火大会、スタンプラリー、抽選会など盛りだくさんのプログラムで行われ、学びの時間では、お浄め、お百度なども行われた。特に事前に子供にも分かるように説明をするなど、多くの工夫があり、参加者全員が家族のように触れ合い、思いやりの心を発揮することができた2日間となった。参加者からは「ぜひ来年も」との声が多く聞かれ、役員一同、来年は更により良い行事にしようと誓い合った。

岐阜関ヶ原支部

心地よい剪定日和に恵まれ

岐阜関ヶ原支部は6月22日、怨親平等大供養塔周辺の剪定奉仕を行った。

当供養塔では当支部が地域の方々をはじめ大勢の方と共に春・秋の大供養祭を執り行っているが、供養塔含む周辺一帯は史跡巡りのウォーキングコースとなっており、近年は、隣の資料館にも大勢の

観光客が訪れている。

そのような発展を見る現地にて、当支部では、地域の方々、全国から訪れる方々に喜んでいただき、共に栄えていけるようにとの願いから定期的に供養塔の周辺の整備や清掃活動を行っている。

当日は雨の心配もあったが、心地良く作業が行える剪定日和となり、支部の子供たちも参加して役割分担にしたがって、作業に汗を流した。

奉仕終了後、御礼の心を込めて供養塔

静岡教区・西地区女性のつどい

抹茶を楽しみながら交流を深める

6月16日、静岡教区では西地区女性のつどいをJA遠州中央茶ピアにて開催し、「楽しいつどいになりたい」との狙いから新



しい人を誘いながら相互の親睦と交流を企画。会員、法縁者を合わせて46名(内5名が初参加)が参加した。

抹茶席の体験は一度に全員が入れないため、バスと自家用車のグループに分かれて、バス利用者は午前10時に先に行き、自家用車の方はプログラムの後、午前11時40分に行った。本部から出講の木村正則指導員より茶道を通して分かりやすく「思いやりの心は伝えられる」という内容の講話があった。昼食はバイキング会場で参加者一同、楽しいひと時を過ごした。

東京第4教区・修法研修

御修業を通して若手育成



東京第4教区では7月20日、大岡山支部において前期御五法修業仲介者研修を開催し、支部長を中心に各支部幹事、教区役員

の27名が参加した。

当日は宮崎達郎教区長の挨拶に続いて、本部より出講の大賀光夫指導員より講話①として「御修業の現状と今後の展望」について、宮崎尚担任部長からは修法シートを使った霊動の確認が行われた。その後、大賀指導員から講話②として霊動の補足があり、参加者からの質疑応答と続いた。最後に田島嘉久担任部長の閉会挨拶をもって研修は終了となった。

当教区では、今後も今回のような御五法修業を通じた若手育成を推進するとともに、支部活性化のために様々な企画を進めていく予定である。



周辺の天茶の撒き供養を行い、秋の怨親平等大供養祭に向け大勢の参加者と共にお使いいただけるよう、精進努力することを誓い合った。

御徒町支部設立 65 周年記念行事

初代支部長ご夫妻へ感謝のご供養



6月16日、長梅雨の合間の穏やかな天候に恵まれる中、御徒町支部では、支部設立65周年記念行事を開催し、48名が参加した。

一行は御徒町支部をバスで出発し、御霊地へ月参りの後、埼玉県本庄市にある塙保己一記念館を見学。続いて、記念館隣にある志村三郎初代支部長、志村ナカ2代目支部長ご夫妻の菩提寺である実相寺へと向かった。

本堂にて住職を導師に、志村家の祖先並びに、志村支部長ご夫妻への真心の供養を捧げた。その後、群馬県藤岡市まで足を伸ばし桜山温泉で入浴、昼食を堪能して交流を深めた後、帰宅の途についた。

立教100年に向かうスタートの年であり、支部設立65周年、現在の上原功支部長夫妻の支部継承31年目と支部にとって意義ある本年に、記念行事を行えたことに、会員一同喜びを胸に新たな精進を誓い合った。

和歌山東支部

38年間氏神様に奉納演奏

7月25日 和歌山東支部の氏神様である津秦天満宮で夏祭、夏越の大祓式が執り行われ、当支部の青年部



鼓笛隊が演奏を奉納した。奉納前の決起挨拶では、津村英雄支部長が、「今回で38回目の演奏であり、一度も休むことなく続けてこれたことは有り難い」と、会員と鼓笛隊へ感謝の気持ちを述べた。また、和歌山県の議員からは地域に貢献する解脱会に感謝と応援の言葉が贈られた。

奉納曲は、DA PUMPの「U.S.A」と懐かしい「野に咲く花のように」を演奏。ある支部会員は楽しく奉納演奏できたことを喜んで、「38年という長い歴史で子供だった隊員が大人になり、自分の子供と一緒に参加し演奏を続けているその姿勢が『野に咲く花のように』の持つ健気な心と重なって、聞く人の心に響いて、とても和やかな雰囲気を作ることができた」と感激していた。さらに、宮司様から幅広い世代が集まり奉納し続けることの大切さと感謝の言葉が贈られた。奉納後、隊員たちは支部にて支部長や会員が用意したお弁当や飲み物を頂き、カラオケで楽しいひと時を過ごした。

米国研修報告

米国で学び得たもの

内務局調札部 目代 幸司
教務局布教部 齋藤 隆浩

6月27日～7月10日に行われた米国研修のお役目にお使いいただきました。米国研修では、サクラメント教会の六地藏バザーのお手伝いとロサンゼルス教会の感謝会(サンデーサービス)への参加と観光をさせていただきました。研修で得た気づきを報告させていただきます。

両教会で会員さん方に「お手伝いできることはありますか」と伺うと、常に笑顔で作業を与えてくださり、作業後は大

変に喜ばれました。こうした心遣いのお蔭で、初体験で言葉の壁もある中、皆さんと共に楽しむことができました。帰国後、自分の日常にはそのような余裕がなかったことを反省し、周りに優しくできる自分でありたいと感じました。

ロサンゼルスでは、全米日系人博物館を拝観させていただきました。博物館には米国に渡られた日本人の方々の開拓の歴史が展示してあり、移民の方々の苦労や文化、コミュニティのことが日本語での音声ガイドでとても分かりやすく案内されていました。全米日系人博物館を拝観させていただき、米国に訪れる前に勉強していたことをより深く理解することができたように感じまし

た。拝観できて良かったです。

研修では、瀬部明先生や山田一雄開教師・洋子ご夫妻、岡野尚也開教師、ジャクソン・伊藤先生をはじめ会員さん方に大変お世話になりました。お蔭様でお役目を果たせましたことを感謝致しますと共に、この経験を今後の糧として一層努力して参ります。



10月度研修のお知らせ

解脱実修基礎コース

日時：10月26日(土)～27日(日)
申込締切：9月27日(金)
会場：御霊地・解脱研修センター
対象：会員ならどなたでも参加できます

定員：40名
目的：解脱会員としての基本的な事柄を学修し、家庭・支部、ひいては国づくりに活躍できる私となるべく、解脱生活の基盤を作る
研修費：10,000円
夫婦割：ご夫婦で参加の場合、2人で15,000円となります
申込み・お問い合わせ：解脱会教育部 研修係
TEL：03-3353-3667(教育部直通)
FAX：03-3353-3708(教務局共通)